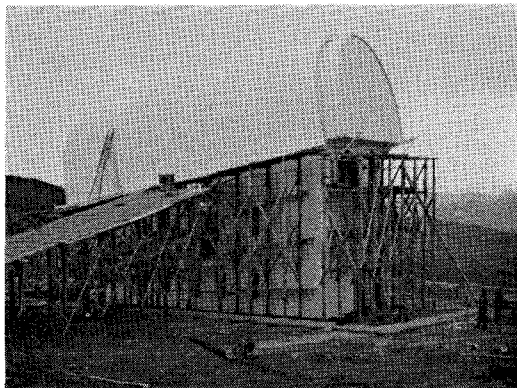


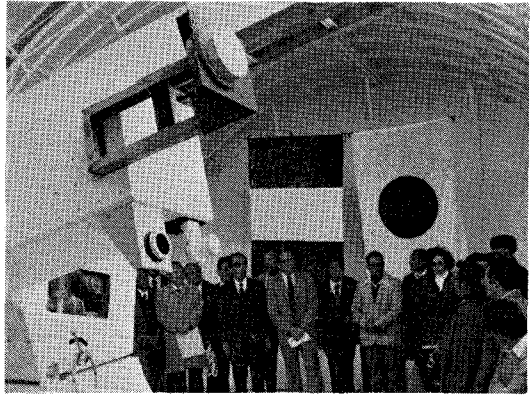
学界・民間の多くの団体や個人の方々のみでなく、ペルー国在住の日系の方々をも含む広範囲の人達の厚意ある物・心の援助により、コロナグラフの建造とペルー国への輸送、さらにその後における太陽電波観測機や測定機類の設置のほか、石塚・野村両氏の JICA 派遣方、ワンカイヨ観測所員の日本留学研修への配慮など、多種多様の国際協力のお蔭が大きかったことは明らかである。

なお、筆者はこれに関わりを持った者の1人として、この紙面をお借りして、今まで直接・間接に御援助を賜った多数の方々に謝意を表わすとともに、永い念願であったコスモス太陽コロナ観測所の開設を簡単ながら報告できたことは悦びであり、その機会を与えられた編集者にお礼を申し上げたい。



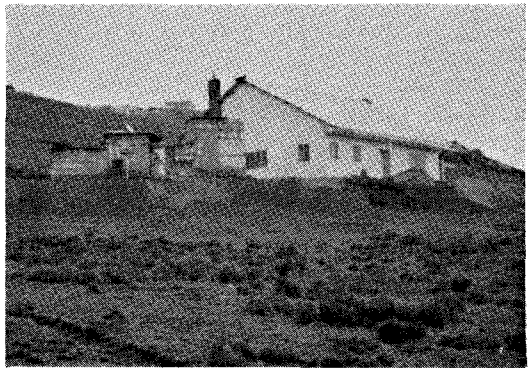
最終仕上げ段階の観測棟

宿 泊 棟→



コスモス観測所の開所式
(1953年10月22日、観測棟内)

左端はわが国より寄贈のコロナグラフ、人物は左から順次3人目、大使館参事官川崎氏、サンマルコス大学名誉教授ダビラ氏、東京天文台森本氏、筆者、1人おいて、ペルー国立地球物理研究所長ギーセケ氏、1人おいて、ペルー国文部大臣代理。



学会だより II

☆名簿発行について

前回は昭和51年12月末日現在の名簿を発行しました。その後会員の入退会、住所変更等も多く、現在の名簿では不自由となり、新しい名簿の要望が強くなりました。名簿作成原稿のための往復ハガキを郵送致しましたので、必要事項を御記入の上御返下さい。もし返送のない場合は古い記載がそのままなることを御了承下さい。

☆ ☆ ☆

雑 報 I

ブラッドフィールド彗星 (1979 c) の発見

1979年6月26日東京天文台着の天文電報によると、オーストラリアのブラッドフィールドは、彼にとって9個目の新彗星を1979年6月24.417日発見した。位置と光度は次の通り。

$$\alpha = 8^{\text{h}}37^{\text{m}} \quad \delta = -1^{\circ}20' \quad 10 \text{等}$$

トレガスキーによる翌日の観測では北西に移動中であるという。

今年の彗星は、パロマーのコワルによる1月27.11250日のコワル新周期彗星(1979 a)、オーストラリアの122 cm シュミットで1979年2月2.69097日にスタンデンが撮影した乾板から検出されたダニエル周期彗星(1979 b)に次ぐ3番目のものである。(香西洋樹)